

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘グループホーム山国		
所在地	大分県中津市山国町守実57番地1		
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年11月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①自然環境を生かし、季節ごとの景色を楽しんで頂ける行事やドライブによる散策などの機会を設けている。
- ②地元の食材を取り入れた食事の提供や、洗濯物干し・洗濯畳み・荘内の掃除など利用者様の個別の状態に応じた生活支援を行い、役割を持つ事で意欲の向上や家庭で過ごしてきた生活を継続出来るように支援している。
- ③災害や緊急時の対応について、日々の訓練や行政・医療機関との連携を図り、早期の対応に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員同士、仲が良く和気あいあいと明るく接している。
- ・職員の資格取得にも力を入れ、資質向上に努めている。
- ・職員に地元の人が多く、なじみの関係があり、寄り添った支援が出来る。
- ・利用者のやりたいことや出来ることを把握し、役割を持った支援をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を職員が見やすい場所に掲示して朝の申し送りや職員会議で唱和し、理念の浸透に努めて、実践に活かしている。	グループホーム独自の理念を掲げ、法人理念とともに玄関の見やすい位置に掲示している。理念をもとに自立支援に向けた実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の食材購入や理容室などの地域のお店を利用し、地元との交流が持てるように努めている。	利用者と一緒に地域の店におやつや日用品の買い出しに出かけている。また、職員は自治体の溝掃除などに参加するなど、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方から認知症についての相談などがあれば、居宅支援事業所や包括支援センターなどを紹介したり、利用できるサービスの簡単な説明などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事前にサービス内容や状況報告の書類を作成配布し、会議時に意見交換の時間を増やすことで、貴重な意見を頂くだけでなく、より良いサービス提供のあり方を話し合い検討する。	運営推進会議は書面で行われており、事業所の報告をし、意見を聞いている。身体拘束や、行事食についての意見をもらっている。家族にはアンケートを実施している。	コロナ禍も5類に移行し、落ち着いたを取り戻しつつある中、運営推進会議は書面ではなく参集での開催で活発な意見交換の場となるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者からの情報提供や地域包括センター職員の相談やアドバイスを頂きながら、協力関係の維持に努めている。	市の担当者には、マイナンバーカードなど書類に関してや、待機者について相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に係る指針を作成し職員への周知を図ると共に、安易に身体拘束を行わない支援を継続して行く。運営推進委員会でも事例を挙げて委員の方から貴重な意見を頂いている。	職員同士で、利用者が安心して付き合いたいという方針で、行動を妨げるもの無いよう気配りしている。不適切な発言があっても職員間で注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対応の規定を作成し、年に4回会議を開催し事例検討を行う。課内研修にて虐待についての認識、意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について行政や関係機関に相談しながら必要性を認識し、活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要説明事項を十分納得して頂ける様に説明を行っている。要望や意見を聞き入所後の不安の解消に努めている。契約内容変更時には、都度承諾書を頂き対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの見直し時や面会時など機会あるごとに確認し、意向や要望等を確認し話し合う事で、ご利用者主体の支援、運営に努めている。	家族には、面会時や、電話で意向や要望を聞くようにしている。また、アンケートを実施し意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議開催時に業務に関する改善点等様々な意見を聞き意見を反映に努めている。また、上司(施設長)による個別の面談も実施している。	職員から、休憩時間に関しての要望があり、全体会議で話し合い、実現できた。個人的なことにしても、休憩時間などに、個々に聴き取り、意見や要望を聞き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇取得や資格取得への支援、職場環境づくりに努めている。個別面談で希望部署の把握等。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り必要な研修に参加、職員の資質向上に努めている。また、資格取得の為の個々の取り組みについて業務上の配慮や助成制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に所属しており、交換実習や施設見学を計画している(コロナ感染症の状況を見て)。また、意見交換を図っている。意見交換で各施設の状況を把握し、参考にする点や改善やサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人やご家族と十分な面談を行い生活の在り方を検討する。また、事前に施設見学をして頂き、施設の雰囲気や生活の流れを把握して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や面談時に現状やサービスの利用状況などを伺い、ご家族の意向を理解し介護相談や助言を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人の状況を的確に判断し、助言をすると共に必要と思われる内容には説明を行い、他の関係機関等のサービスの紹介を含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本位の一方的な支援にならない様に本人の生活のペースに合わせた支援を実施している。生活の中で、利用者様から知恵を頂くこともあり、共に生活を過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が置かれている環境を考慮し可能な範囲での家族支援について、ご利用者の希望を代弁し理解して頂いた上で、協力を依頼する様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は事前に届け出を出して頂いている。外泊は現状コロナ感染症を考慮して禁止状態。面会時は、共に過ごせる場所を提供し、ご家族・ご友人など大切な人たちとの時間を有意義に過ごせるように努めている。	家族以外の近所の人や友人が面会に来たり、受診の帰りに以前の住まいを訪問することもある。受診時病院で近所の人と会って話すこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や性格を把握し、ご利用者同士の間関係が円満にいくように配慮して、有意義に過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移動された方も、情報提供をしたり、継続的に相談を受けたりして関係性を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の表情・行動・言動などから、思いを汲み取り寄り添った支援に努めている。	話しの中で希望や意向が聞けたときは、職員同士で共有し、話し合いをしながら今後の支援につなげていく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の担当ケアマネージャーからの情報を考慮し支援に生かしている。また、入居後もご本人やご家族に聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族の個々の生活リズムを把握すると共に、趣味や特技を把握し支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人の日常的な関わりの中での思いや意向を把握し、反映させるようにユニット会議や担当者会議で話し合い、ケアプランの作成とサービスの向上に努めている。	6か月に1回モニタリングを行い、家族にも意向を聞きながらサービス担当者会議で話し合い、その人にあったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を個別援助記録に時間毎に記録し、体調変化等の気づきの申し送りを徹底し情報の共有でプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた通院や送迎などの支援を柔軟に対応している。個別対応を心掛けご家族やご本人の満足感を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所としての地域資源に留まらず、個別の社会資源の活用を実現させるため、支援計画において、各利用者に応じたインフォーマルサービスを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人が希望する医療機関へ受診するように支援している。Dr.の紹介があれば他の病院への受診支援も行っている。	家族が希望すれば、事業所の協力医に変更となることもある。遠方の受診は事前に電話で様子を伝え、家族の対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や健康診断にてご利用者様の状態や既往歴を把握している看護師や法人内の看護師に助言を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前のご利用者様の生活状況やご希望を情報として提供し、入院や治療がスムーズに行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される前に早い段階で医師の意向を確認し、医師を交えて御家族に十分な説明をして納得したうえでの終末期を過ごして頂ける様に取り組んでいる。	契約時に家族には説明と同意書をもっている。重度化した時は早い段階で医師や家族と話し合い、必要に応じて入院や住み替えとなることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に救急救命講習を受講させ急変時の対応を迅速に行えるように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の緊急連絡網の作成・非常呼集訓練・避難訓練の実施。消防署の指導の下総合訓練も実施し、避難時の食料備蓄などの体制も整えている。	火災時の避難訓練を行っている。台風や水害に関しては過去に何度も被害があり、早めに避難を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の研修を行い、言葉かけや対応の実践を行い、人格を尊重した対応が行えるようにしている。プライバシー保護についても研修を行い理解を深めるように努めている。	各職員が担当して内部研修を行っている。トイレでの見守りが必要な人にはドアを少しだけ開けて様子を窺うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、ご利用者様個々の意思表示を大切にしたケアに心掛けている。意思表示が苦手や表示しにくい方に対しては、職員が声掛けを行い、ご本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常の日課では、食事・トイレ・入浴・口腔ケア等の変更時、ご本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望する服を着て頂き、希望の髪型を聞き地域の美容室でのカット等の支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みの味付け(薄い・濃い)・食事に合わせている。地元の食材を出来る限り使用し、献立を説明している。	誕生日や行事食は楽しみの一つになっている。ドライブでアイスを食べたり差し入れのサツマイモで金時や焼き芋を楽しんでいる。時々皆でホットケーキやたこ焼きを作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、不足と思われる時は、声掛けや説明・申し送りをして必要な支援を行なっている。栄養士にも相談して、補助栄養の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・義歯の手入れ・うがいの支援や介助を行っている。義歯使用の方は、毎晩義歯洗浄(ポリデント)の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別支援記録より排泄パターンを把握し、声掛け等でのトイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄をして頂ける様に支援している。	日中は一人ひとりに合わせてトイレに誘導して見守りをしている。夜間はポータブルトイレ利用の人や、排泄パターンを把握し、睡眠を妨げないようにトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や・水分摂取で便秘予防に努めている。排泄チェック表を活用して便秘支援を行なっている。主治医より内服を処方され排便コントロールを行っている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。ご本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。入浴時は、ご本人が満足して頂けるようなペースに合わせて支援を行っている。	柚子湯や入浴剤使用し、入浴を楽しめる工夫をしている。入りたくない人には声掛けの仕方や時間を変えたり気分転換を図りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご利用者の生活パターンを観察し、ご本人の意向を尊重し支援を行なっている。昼寝・運動・レク・余暇活動の参加を行うことで、安眠を促す支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の内服を薬情により用法・用量を把握し支援している。内服に変更があった場合は、内容の記録と職員間での情報の共有を行う。変更後のご本人の状態変化は、迅速に主治医に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の個別の趣味や嗜好、それぞれの得意分野の把握をして、余暇活動の支援を行なっている。お手伝いが出来る方には、お願いして、お手伝い後に感謝の気持ちを言葉で伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどご利用者の希望にこたえられるように可能な限り支援している。コロナ感染症を考慮して人混みは避けるように対応している。	テラスでお茶を飲んだり、ドライブに出かけたり、受診時に遠回りをして自宅周辺に行くこともある。家族と受診時に外食やドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍前までは職員が付き添いの下で可能な方は、支払うようにしていた。日常で、お金をいくらかでも手元にないと不安と訴える方には、ご家族の了承を得て少額のお金を所持してもらう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、携帯電話をお持ちの方は、時間を決めてご家族に電話をする交流を支援している。携帯電話を持っていない方は、訴えがあればご家族に電話をして会話をする支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や光の調整、リビング・居室の清掃の徹底など気持ちよく過ごして頂き環境整備に努めている。季節によって、テラスでのおやつ時間を設けて季節感が味わえるように配慮を行っている。	職員と一緒に貼り絵で作った干支を展示している。テレビの前にソファをおいて仲の良い人同士でくつろいでいる。また職員が花を生け、季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置きテレビをゆっくり見たりご利用者さん同士世間話を職員を交えて行い、季節を感じてもらえるようにテラス等でのティータイムをt楽しんで頂く環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみの時計(置時計)や家族の写真などを配置し、本人好みに合わせて自由にレイアウトできるように支援している。	壁には家族の写真やカレンダーを張ったり、お人形を置いたり、本人にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置し、ベッドに介助バーの取り付け適切な福祉用具を活用し、安全に動作できるように環境を整えて対応している。		